

米の基本指針(案)に関する主なデータ等

令和3年7月
農林水産省農産局

目 次

○ 令和２／３年及び令和３／４年の主食用米等の需給見通し	・ ・ ・ ・ ・	２
○ 米の販売数量及び民間在庫の推移	・ ・ ・ ・ ・	３
○ 産地別民間在庫の状況	・ ・ ・ ・ ・	４
○ 相対取引価格の推移	・ ・ ・ ・ ・	５
○ 相対取引契約数量の推移	・ ・ ・ ・ ・	６
○ 令和２年産米の相対取引価格	・ ・ ・ ・ ・	７
○ 令和元・２年産のスポット価格の推移	・ ・ ・ ・ ・	８
○ 令和３年産米等の作付意向について	・ ・ ・ ・ ・	９
○ コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況	・ ・ ・ ・ ・	１２
○ 令和３年産備蓄米の政府買入入札の結果	・ ・ ・ ・ ・	１３
○ 米穀周年供給・需要拡大支援事業による支援	・ ・ ・ ・ ・	１４
○ 米の需要拡大・販売促進対策について	・ ・ ・ ・ ・	１５
○ 国産農林水産物等販路多様化緊急対策の取組の具体例	・ ・ ・ ・ ・	１６
○ 政府備蓄米の無償交付（子ども食堂等、子ども宅食への支援）	・ ・ ・ ・ ・	１７
○ ＭＡ米の輸入状況	・ ・ ・ ・ ・	１８
○ 令和２年度ＳＢＳ米の輸入入札状況	・ ・ ・ ・ ・	１９
○ ＴＰＰ１１におけるコメの豪州枠の運用	・ ・ ・ ・ ・	２０

令和2/3年及び令和3/4年の主食用米等の需給見通し(令和3年2月公表 基本指針)

【令和2/3年の主食用米等の需給見通し】

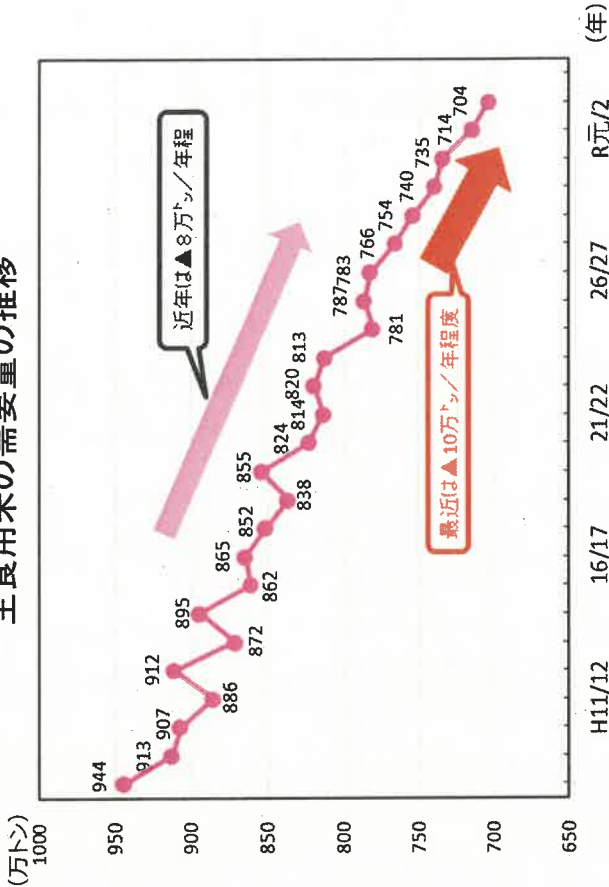
(単位: 万トン)		
令和2年6月末民間在庫	A	200
令和2年産主食用米等生産量	B	723 729万 ^{平年作} トン
令和2年/3年主食用米等供給量計	C=A+B	922
令和2年/3年主食用米等需要量	D	711~716
令和3年6月末民間在庫	E=C-D	207~212

注：令和2/3年主食用米等需要量は、新型コロナウイルス感染症の状況や価格動向等によって、今後、変動する可能性がある。

参考：7月基本指針

201
709~717
910~918
715
196~204

主食用米の需要量の推移



▲36万^{トン}
(▲6.7万ha)

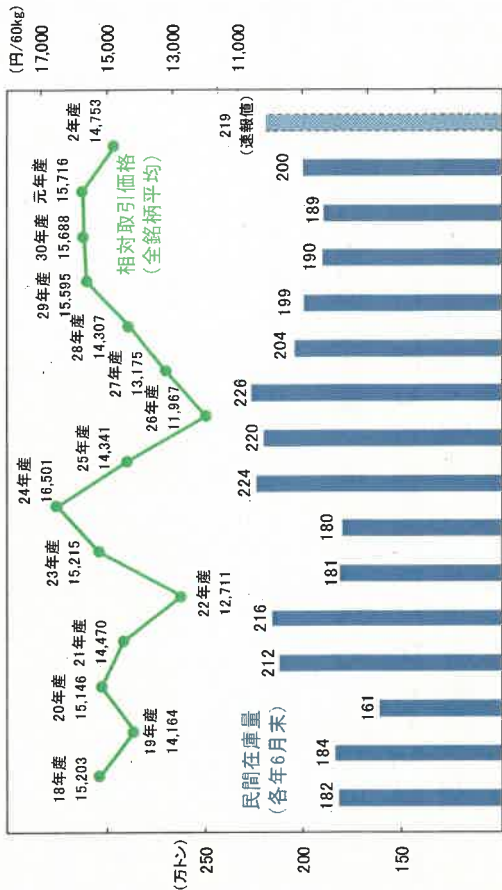
【令和3/4年の主食用米等の需給見通し】

令和3年6月末民間在庫	E	207~212
令和3年産主食用米等生産量	F	693
令和3年/4年主食用米等供給量計	G=E+F	900~905
令和3年/4年主食用米等需要量	H	705
令和4年6月末民間在庫	I=G-H	195~200

(単位: 万トン)

207~212
692
899~904
705
193~199

相対取引価格と民間在庫量の推移



注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月（2年産は令和3年5月）までの通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

米の販売数量及び民間在庫の推移(令和3年6月)

- 主食用米の需要が1人当たりの消費量や人口減少等の影響により毎年約10万ト(約1.4%)程度減少すると見込まれる中、直近1年間(令和2年1月～12月)においては、新型コロナウイルス感染症の影響等により、中食・外食事業者向けの販売数量が減少している一方で、販売数量が伸びている小売事業者向けを合わせても全体で2%の減少となっている。
- 米の民間在庫量については、令和3年6月末で173万トと対前年同月比+19万トとなっており、前年と比較し高い水準で推移している。

【米穀販売事業者における販売数量の動向】

	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11月	12月	2年1月 ～12月計	3年	4年	5年	6月
小売事業者向け	101%	112%	124%	110%	95%	104%	103%	105%	102%	101%	108%	106%	107%	96%	84%	99%
(※平成31年との比較)													(108%)	(107%)	(104%)	(103%)
中食・外食事業者向け	98%	99%	88%	75%	76%	89%	86%	85%	89%	92%	92%	88%	87%	88%	103%	104%
(※平成31年との比較)													(86%)	(87%)	(91%)	(92%)
販売数量計	100%	106%	108%	94%	86%	97%	95%	95%	96%	97%	100%	98%	97%	92%	102%	101%
(※平成31年との比較)													(97%)	(98%)	(96%)	(98%)

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：報告対象者は、年間玄米仕入数量50,000ト以上の販売事業者(年間取扱数量約160万ト(令和2年度主食用米等の生産量723万トの約2割))である。

2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。

3：速報値であるため、公表後の数値修正が生じる場合がある。

4：令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、各月ごとの消費動向に大きな変動が生じていることから、参考として令和元年(4月までは平成31年)の同月との比較をした値を記載。

【購入数量の推移(家計調査)】

	2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年1月～ 12月計	3年 1月	2月	3月	4月	5月
購入数量	3.52	4.60	5.54	5.44	5.11	4.94	4.90	5.06	7.04	7.71	5.25	5.48	64.53	3.92	4.12	4.99	4.81	4.88
前年比	90.0%	100.9%	116.9%	108.2%	108.5%	102.1%	107.9%	110.2%	109.7%	94.5%	96.9%	102.4%	103.7%	111.4%	89.6%	90.1%	88.4%	95.5%

(単位：Kg、%)

資料：総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

【民間在庫量の推移(出荷+販売段階)】

	当年	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年	1月	2月	3月	4月	5月	6月
元/2年														
出荷+販売段階	79	79	161	294	315	318	295	266	233	204	178	154		
出荷段階	74	55	128	238	257	261	244	219	184	157	138	109		
販売段階	26	24	33	56	58	57	51	47	49	46	40	45		
出荷+販売段階	119	101	190	324	344	342	321	293	265	230	199	173		
対前年差	+20	+21	+29	+30	+29	+24	+26	+27	+31	+27	+21	+19		
2/3年														
出荷段階	84	70	151	265	285	284	269	245	217	186	162	132		
対前年差	+10	+15	+23	+27	+27	+22	+26	+27	+33	+29	+24	+23		
販売段階	35	31	39	59	60	58	52	48	48	44	37	41		
対前年差	+10	+7	+6	+3	+2	+1	+1	+1	+1	+2	+3	+4		

(単位：万玄米トン)

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。

2 報告対象者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000ト以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が5,000ト以上)、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000ト以上)

3 期間については、2/3年であれば、令和2年7月～3年6月である。

産地別民間在庫の状況(令和3年6月)

(単位:千玄米トン)

	2年 5月 ① (千玄米トン)	2年 6月 ② (千玄米トン)	3年 5月 ③ (千玄米トン)	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=③/① (%)	3年 6月 ⑥ (千玄米トン)	対前年 同月差 ⑦=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑧=⑥/② (%)
北海道	178.7	147.4	234.8	+ 56.1	+ 31.4%	200.4	+ 53.1	+ 36.0%
青森	101.1	93.7	110.1	+ 9.0	+ 8.9%	101.1	+ 7.4	+ 7.9%
岩手	89.1	86.5	96.4	+ 7.3	+ 8.2%	90.5	+ 4.0	+ 4.6%
宮城	118.8	112.3	142.8	+ 24.0	+ 20.2%	135.9	+ 23.6	+ 21.0%
秋田	137.3	115.9	149.7	+ 12.5	+ 9.1%	128.8	+ 12.9	+ 11.2%
山形	116.6	102.6	130.0	+ 13.4	+ 11.5%	109.7	+ 7.1	+ 6.9%
福島	139.9	124.3	128.6	▲ 11.3	▲ 8.1%	114.3	▲ 10.0	▲ 8.0%
茨城	60.5	50.3	70.4	+ 9.8	+ 16.3%	58.3	+ 8.0	+ 15.9%
栃木	92.3	79.0	124.3	+ 31.9	+ 34.6%	115.0	+ 36.0	+ 45.5%
群馬	11.0	9.6	13.3	+ 2.3	+ 20.7%	12.1	+ 2.5	+ 26.0%
埼玉	16.6	13.4	23.6	+ 6.9	+ 41.6%	21.2	+ 7.8	+ 58.6%
千葉	33.7	25.8	58.7	+ 25.0	+ 74.4%	47.1	+ 21.4	+ 82.9%
東京	0.0	0.0	0.0	+ 0.0	-	0.0	+ 0.0	-
神奈川	0.9	0.7	0.9	▲ 0.0	▲ 2.4%	0.6	▲ 0.1	▲ 14.2%
山梨	3.2	2.7	2.8	▲ 0.4	▲ 13.6%	2.3	▲ 0.4	▲ 15.9%
長野	38.6	39.6	41.9	+ 3.3	+ 8.6%	39.7	+ 0.2	+ 0.4%
静岡	7.4	5.5	6.4	▲ 1.1	▲ 14.3%	4.5	▲ 1.0	▲ 18.4%
新潟	138.9	121.5	145.2	+ 6.3	+ 4.6%	125.2	+ 3.6	+ 3.0%
富山	43.2	34.3	56.6	+ 13.3	+ 30.8%	46.5	+ 12.2	+ 35.6%
石川	26.6	22.9	37.9	+ 11.3	+ 42.3%	31.6	+ 8.7	+ 38.2%
福井	35.2	29.6	33.1	▲ 2.1	▲ 5.9%	27.3	▲ 2.3	▲ 7.9%
岐阜	18.8	16.6	16.5	▲ 2.3	▲ 12.3%	13.9	▲ 2.7	▲ 16.3%
愛知	19.4	15.7	19.4	+ 0.0	+ 0.1%	15.6	▲ 0.2	▲ 1.1%
三重	18.3	14.7	17.1	▲ 1.1	▲ 6.2%	13.9	▲ 0.8	▲ 5.3%

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注:1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。

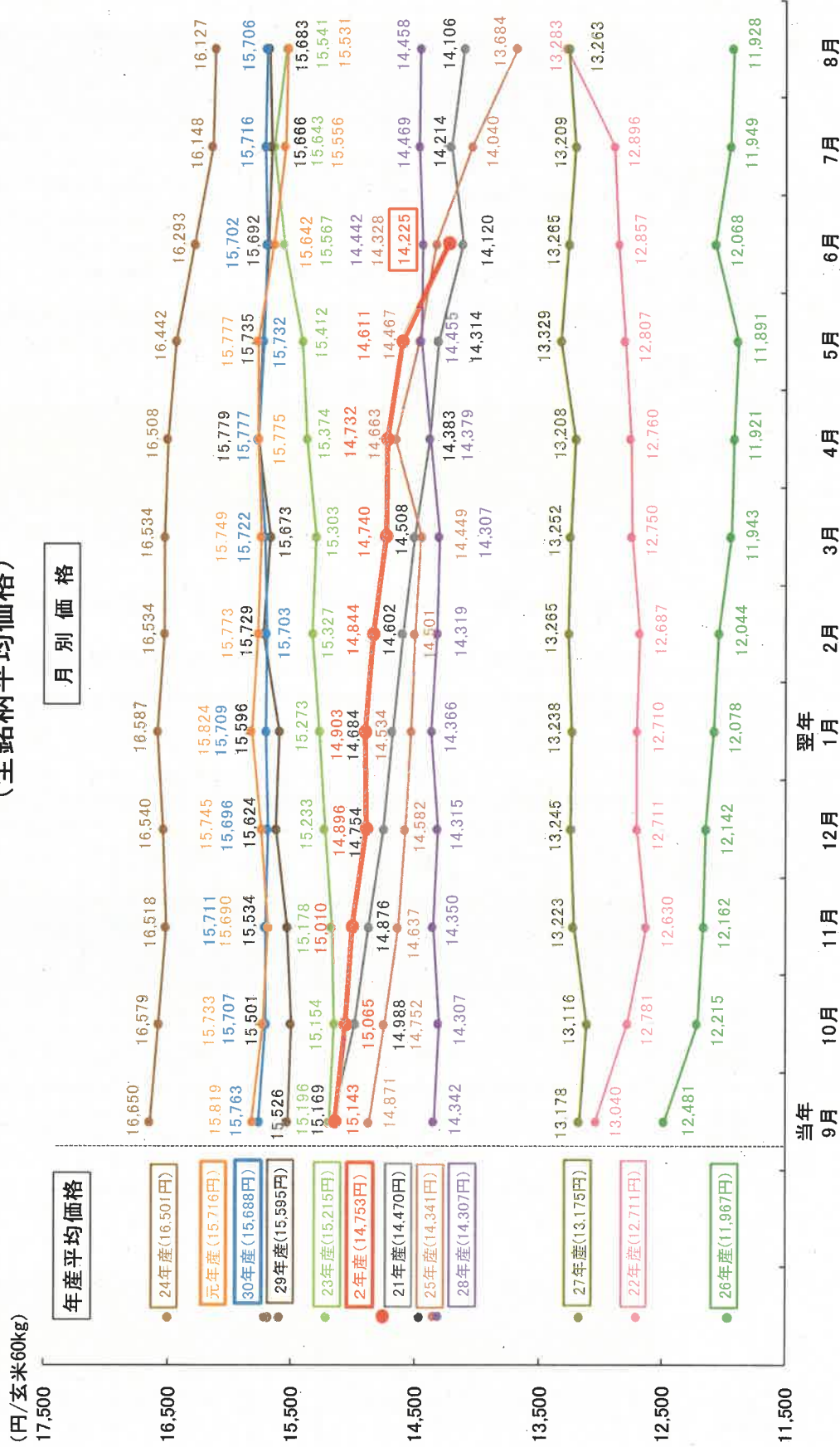
2 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が500トン以上)、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。

	2年 5月 ① (千玄米トン)	2年 6月 ② (千玄米トン)	3年 5月 ③ (千玄米トン)	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=③/① (%)	3年 6月 ⑥ (千玄米トン)	対前年 同月差 ⑦=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑧=⑥/② (%)
滋賀	33.5	25.6	34.6	+ 1.2	+ 3.5%	29.0	+ 3.4	+ 13.1%
京都	6.6	5.5	7.7	+ 1.1	+ 17.0%	6.6	+ 1.1	+ 20.8%
大阪	1.0	0.7	0.5	▲ 0.5	▲ 52.4%	0.3	▲ 0.4	▲ 56.0%
兵庫	26.0	22.0	27.2	+ 1.2	+ 4.7%	25.1	+ 3.0	+ 13.8%
奈良	5.1	4.4	4.2	▲ 0.9	▲ 18.1%	3.5	▲ 0.9	▲ 19.9%
和歌山	0.9	0.8	0.7	▲ 0.2	▲ 21.0%	0.6	▲ 0.2	▲ 21.8%
鳥取	16.6	13.6	18.1	+ 1.5	+ 8.8%	17.0	+ 3.4	+ 25.0%
島根	13.5	10.1	16.1	+ 2.5	+ 18.9%	12.9	+ 2.8	+ 27.4%
岡山	33.2	28.0	30.2	▲ 3.1	▲ 9.2%	24.9	▲ 3.1	▲ 11.0%
広島	17.8	14.5	19.9	+ 2.1	+ 11.8%	16.6	+ 2.1	+ 14.5%
山口	17.3	14.2	9.5	▲ 7.8	▲ 45.2%	7.8	▲ 6.4	▲ 45.2%
徳島	5.1	4.0	6.2	+ 1.1	+ 21.0%	4.7	+ 0.6	+ 15.9%
香川	10.1	8.5	11.2	+ 1.1	+ 10.7%	9.5	+ 1.0	+ 11.7%
愛媛	4.5	3.5	4.7	+ 0.2	+ 5.0%	3.7	+ 0.2	+ 6.7%
高知	3.8	2.9	4.1	+ 0.3	+ 6.7%	3.2	+ 0.3	+ 9.9%
福岡	25.8	19.7	24.0	▲ 1.8	▲ 6.8%	18.6	▲ 1.1	▲ 5.7%
佐賀	15.9	13.0	15.1	▲ 0.8	▲ 5.0%	11.8	▲ 1.2	▲ 9.2%
長崎	4.1	3.2	3.8	▲ 0.3	▲ 6.5%	3.1	▲ 0.1	▲ 3.1%
熊本	24.6	19.8	25.6	+ 1.0	+ 3.9%	21.3	+ 1.5	+ 7.5%
大分	7.0	5.6	6.6	▲ 0.5	▲ 6.5%	5.5	▲ 0.1	▲ 2.3%
宮崎	4.6	3.2	4.6	▲ 0.0	▲ 0.9%	3.5	+ 0.3	+ 8.5%
鹿児島	10.1	8.3	11.0	+ 0.9	+ 8.9%	9.7	+ 1.4	+ 17.0%
沖縄	0.1	0.3	0.0	▲ 0.1	▲ 90.9%	0.4	+ 0.1	+ 20.9%
全国	178万 ^ト	154万 ^ト	199万 ^ト	+21万 ^ト	+11.8%	173万 ^ト	+19万 ^ト	+12.3%

相対取引価格の推移(平成21年産～令和2年産)

○ 令和2年産米の令和3年6月の相対取引価格は、全銘柄平均で前月差▲386円の14,225円/60kgとなり、出回りからの年産平均価格は前年産▲963円の14,753円/60kgとなったところ。

相対取引価格の推移（税込）
（全銘柄平均価格）



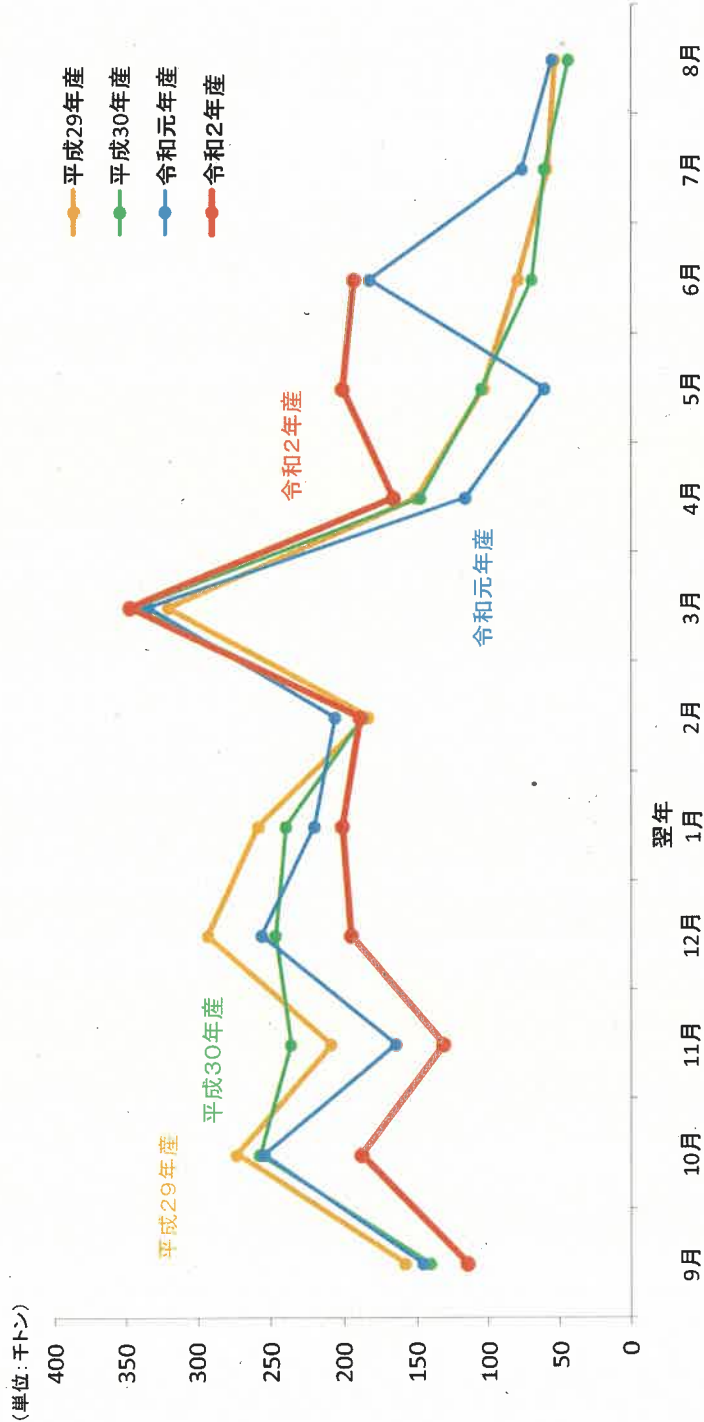
資料：農林水産省調査

注1：運賃、包装代、消費税相当額(平成26年3月までは5%、元年9月までは8%、元年10月以降は10%、ただし軽減税率対象は8%)を含む1等米の価格である。

2: グラフの左側は各年産の通年平均価格(当該年産の出回りから翌年10月(2年産は令和3年6月)まで)、右側は月ごとの価格の推移。

相対取引契約数量の推移

○ 令和2年産米の相対取引契約数量は、出来秋以降、令和3年1月まで低調に推移。しかし、その後回復基調にあり、特に5月以降は、3年産の主食用米からの作付転換の進展が見込まれることなどから、近年で最も多い契約数量となっている。



資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」
 注： 1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。
 2 相対取引数量は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の数量の合計である（2年産は速報値）。
 3 相対取引数量の合計欄は、出回りから生産年の翌年10月までの数量であるため、各月の合計と一致しない。

令和2年産米の相対取引価格(令和3年6月の年産平均価格)

産地品種銘柄	令和2年産 〔出回り～ 3年6月〕		令和元年産 〔出回り～ 2年10月〕	価格差 ①-②
	①	②		
北海道 ななつぼし	14,706	15,869	▲ 1,163	
北海道 ゆめぴりか	16,960	16,800	+ 160	
北海道 きらら397	14,440	15,420	▲ 980	
青森 まっしぐら	12,688	14,789	▲ 2,101	
青森 つがるロマン	13,414	15,059	▲ 1,645	
岩手 ひとめぼれ	14,714	15,312	▲ 598	
岩手 あきたこまち	14,297	15,180	▲ 883	
岩手 銀河のしずく	15,367	16,241	▲ 874	
宮城 ひとめぼれ	14,656	15,511	▲ 855	
宮城 つや姫	15,133	15,850	▲ 717	
宮城 ササニシキ	14,916	15,782	▲ 866	
秋田 あきたこまち	14,719	15,799	▲ 1,080	
秋田 めんこいな	13,542	14,621	▲ 1,079	
秋田 ひとめぼれ	13,957	15,086	▲ 1,129	
山形 はるぬき	14,101	15,397	▲ 1,296	
山形 つや姫	18,554	18,588	▲ 34	
山形 ひとめぼれ	15,362	16,165	▲ 803	
福島 コシヒカリ(中通り)	13,369	15,369	▲ 2,000	
福島 コシヒカリ(会津)	15,069	15,392	▲ 323	
福島 コシヒカリ(浜通り)	13,730	14,974	▲ 1,244	
福島 ひとめぼれ	13,210	14,913	▲ 1,703	
福島 天のつば	12,813	14,479	▲ 1,666	
茨城 コシヒカリ	13,665	15,512	▲ 1,847	
茨城 あきたこまち	13,554	15,471	▲ 1,917	
茨城 あさひの夢	12,896	13,538	▲ 642	
栃木 コシヒカリ	14,216	15,576	▲ 1,360	
栃木 あさひの夢	12,755	14,806	▲ 2,051	
栃木 とうぎの星	13,406	14,927	▲ 1,521	
群馬 あさひの夢	12,513	14,920	▲ 2,407	
群馬 ゆめまつり	12,237	14,868	▲ 2,631	
埼玉 彩のかがやき	12,750	14,909	▲ 2,159	
埼玉 彩のますな	12,752	14,916	▲ 2,164	
埼玉 コシヒカリ	13,113	15,169	▲ 2,056	
千葉 コシヒカリ	14,056	15,717	▲ 1,661	
千葉 ふさこがね	13,166	14,751	▲ 1,585	
千葉 ふさおとめ	13,617	14,874	▲ 1,257	
山梨 コシヒカリ	18,312	18,280	+ 32	
長野 コシヒカリ	15,016	15,996	▲ 980	
長野 あきたこまち	14,870	15,199	▲ 329	
静岡 コシヒカリ	15,531	16,207	▲ 676	

産地品種銘柄		令和2年産 〔出回り～ 3年6月〕	令和元年産 〔出回り～ 2年10月〕	価格差 ①－②
		①	②	
静岡	きぬむすめ	14,776	15,229	▲ 453
静岡	あいちのかおり	14,726	15,325	▲ 599
新潟	コシヒカリ（一般）	16,673	17,391	▲ 718
新潟	コシヒカリ（魚沼）	20,304	21,009	▲ 705
新潟	コシヒカリ（佐渡）	17,206	17,993	▲ 787
新潟	コシヒカリ（岩船）	17,165	17,984	▲ 819
新潟	こいびき	14,422	15,143	▲ 721
富山	コシヒカリ	15,642	15,981	▲ 339
富山	てんかく	14,517	14,869	▲ 352
石川	コシヒカリ	15,521	15,899	▲ 378
石川	ゆめみづほ	14,142	14,698	▲ 556
福井	コシヒカリ	15,607	16,345	▲ 738
福井	ハナエチゼン	14,400	15,079	▲ 679
福井	あさひの夢	14,357	15,203	▲ 846
岐阜	ハツモ	14,647	15,368	▲ 721
岐阜	コシヒカリ	14,965	16,176	▲ 1,211
岐阜	あさひの夢	13,560	14,608	▲ 1,048
愛知	あいちのかおり	13,866	14,798	▲ 932
愛知	コシヒカリ	14,508	15,539	▲ 1,031
愛知	大地の風	-	14,979	-
三重	コシヒカリ（一般）	14,859	15,538	▲ 679
三重	コシヒカリ（伊賀）	15,361	15,964	▲ 603
三重	キヌヒカリ	13,952	14,916	▲ 964
滋賀	コシヒカリ	15,258	15,840	▲ 582
滋賀	キヌヒカリ	14,193	14,946	▲ 753
滋賀	みずかがみ	15,112	15,789	▲ 677
京都	コシヒカリ	15,961	16,192	▲ 231
京都	キヌヒカリ	15,032	15,065	▲ 33
京都	ヒノヒカリ	15,869	-	-
兵庫	コシヒカリ	15,464	16,158	▲ 694
兵庫	ヒノヒカリ	13,759	14,835	▲ 1,076
兵庫	キヌヒカリ	13,971	14,852	▲ 881
奈良	ヒノヒカリ	14,626	15,743	▲ 1,117
鳥取	きぬむすめ	14,261	14,799	▲ 538
鳥取	コシヒカリ	14,910	15,489	▲ 579
鳥取	ひとめぼれ	14,073	14,698	▲ 625
鳥根	コシヒカリ	15,304	15,569	▲ 265
鳥根	きぬむすめ	14,481	14,572	▲ 91
鳥根	つや姫	15,210	15,258	▲ 48
岡山	アケボノ	13,248	14,879	▲ 1,631

産地品種銘柄		令和2年産 〔出荷～ 3年6月〕		令和元年産 〔出荷～ 2年10月〕	価格差 ①－②
		①	②	②	
岡山	きぬむすめ	14,398	-	-	-
岡山	あきたこまち	14,646	15,393	15,393	▲ 747
広島	コシヒカリ	14,969	15,470	15,470	▲ 501
広島	あさひの	13,967	14,657	14,657	▲ 690
広島	あさひの	14,077	14,641	14,641	▲ 564
山口	コシヒカリ	15,221	15,518	15,518	▲ 297
山口	ひとめぼれ	14,486	14,628	14,628	▲ 142
山口	ヒノヒカリ	14,400	14,614	14,614	▲ 214
徳島	コシヒカリ	14,947	15,757	15,757	▲ 810
徳島	あさひの	12,627	-	-	-
香川	コシヒカリ	15,406	15,280	15,280	+ 126
香川	ヒノヒカリ	14,866	14,748	14,748	+ 118
香川	おいでまい	15,406	15,368	15,368	+ 38
愛媛	コシヒカリ	15,500	15,553	15,553	▲ 53
愛媛	ヒノヒカリ	15,003	15,012	15,012	▲ 9
愛媛	あきたこまち	14,847	14,851	14,851	▲ 4
高知	コシヒカリ	15,021	14,918	14,918	+ 103
高知	ヒノヒカリ	14,291	14,457	14,457	▲ 166
福岡	夢つくし	16,325	16,285	16,285	+ 40
福岡	ヒノヒカリ	15,431	15,402	15,402	+ 29
福岡	元気つくし	16,192	16,142	16,142	+ 50
佐賀	夢しずく	14,615	14,995	14,995	▲ 380
佐賀	さがひの	15,328	15,954	15,954	▲ 626
佐賀	ヒノヒカリ	14,334	-	-	-
長崎	ヒノヒカリ	14,804	14,978	14,978	▲ 174
長崎	にこまる	15,089	15,305	15,305	▲ 216
長崎	コシヒカリ	15,891	15,918	15,918	▲ 27
熊本	ヒノヒカリ	15,407	15,380	15,380	+ 27
熊本	森のくまさん	-	15,398	-	-
熊本	コシヒカリ	16,251	16,000	16,000	+ 251
大分	ヒノヒカリ	15,337	15,652	15,652	▲ 315
大分	ひとめぼれ	15,258	15,892	15,892	▲ 634
大分	つや姫	15,390	15,908	15,908	▲ 518
宮崎	コシヒカリ	15,292	15,946	15,946	▲ 654
宮崎	ヒノヒカリ	15,960	15,860	15,860	+ 100
鹿児島	ヒノヒカリ	16,630	16,445	16,445	+ 185
鹿児島	あさひの	17,288	16,934	16,934	+ 354
鹿児島	コシヒカリ	16,323	16,670	16,670	▲ 347
全銘柄平均価格		14,753	15,716	15,716	▲ 963

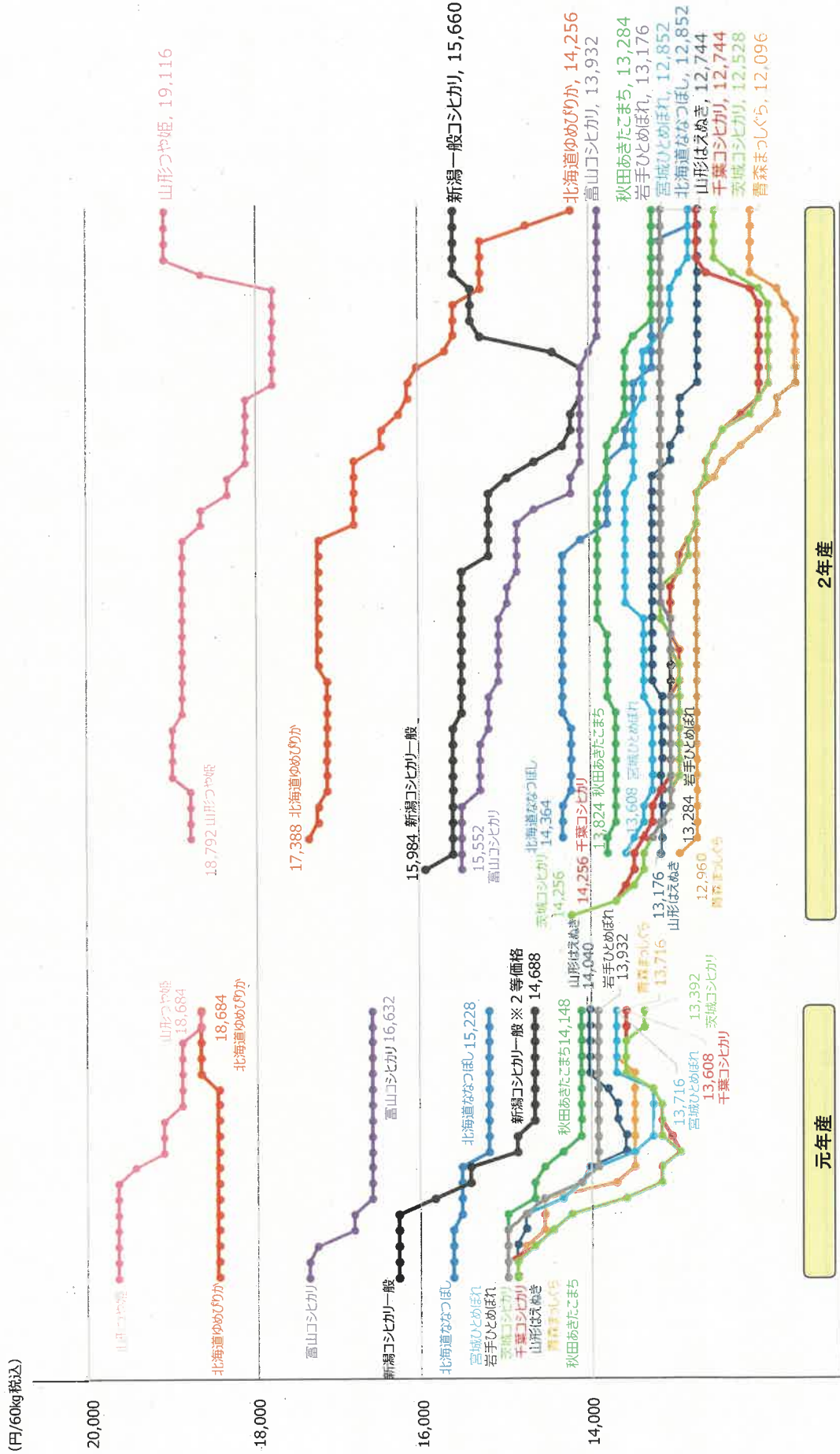
注1:農林水産省が調査・公表した出回りからの年産平均価格(令和2年産は令和3年6月まで)であり、調査対象事業者は、一定規模以上の実荷業者(年間の販売数量5,000トン以上等)。

注2:運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。なお、令和元年10月以降は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は8%、運賃等は10%で算定している。

注3:「1-」について、令和2年産は、当該月までの取引数量の累計が100トン未満であり、価格の公表を行っていないもの。令和元年産は、当該年産において報告対象としていない産地品種銘柄又は取引数量の累計が100トン未満であり、公表を行っていないもの。

令和元・2年産米のスポット価格の推移(令和3年7月26日時点)

- 2年産については、元年度に比べ、低い価格でスタート、その後、横ばいの状況が続いたが、2月中・下旬以降、中食・外食用銘柄を中心に大幅に下落するも、5月下旬以降一部銘柄を除いて、回復基調。
- (参考) スポット取引：主に中小規模の卸売業者間で行う、10トン～数十トン程度の小ロットの売買。

[illegible]

令和3年産米等の作付意向について（第3回中間的取組状況（令和3年6月末時点））①

- 2年産実績との比較による各都道府県の主食用米の作付意向は、6月末時点では、減少傾向41県、前年並み傾向6県、増加傾向0県。
- 減少傾向とした県のうち、「1～3%程度減少傾向」は17県、「3～5%程度減少傾向」は12県、「5%超の減少傾向」は12県となり、4月末時点と比べて、「5%超の減少傾向」とした県は2県から12県へ大幅に増加。
- 6月末時点の作付意向を集計した結果、全国の主食用米の作付面積は、前年比で約6.1万ha程度減少すると見込まれる。一部の地域農業再生協議会で認められている期限後修正の特例措置や、水田面積の減少等も考慮すると、各都道府県における作付転換が計画どおりに進めば、最終的には約6.2～6.5万ha程度の減少が見込まれる。

参考：4月末時点からの主な変化
主食用米：減少38県→41県（うち5%超減少2県→12県）、新市場開拓用米：増加17県→20県、飼料用米：増加38県→41県

【令和3年産米等の作付意向（2年産実績との比較、令和3年6月末時点）】

主食用米	戦略作物						備蓄米
	加工用米	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 (稲発酵粗 飼料用稲)	麦	
	22県	20県	31県	41県	32県	26県	
	5県	3県	3県	1県	7県	7県	
前年より 増加傾向	0県					28県	12県
前年並み 傾向	6県					7県	7県
前年より 減少傾向	41県	17県	11県	3県	6県	12県	15県
	1～3%						
	3～5%						
	5%超						

注1：令和3年産の意向（増加傾向、前年並み傾向、減少傾向）は、2年産実績との比較。
注2：比較している主食用米の2年産実績は、令和2年12月統計部公表の主食用作付面積。
注3：加工用米、飼料用米、WCS用稲、新市場開拓用米の2年産実績は、取組計画認定面積。
注4：麦・大豆の2年産実績は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
注5：備蓄米の2年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

令和3年産米等の作付意向について（第3回中間的取組状況（令和3年6月末時点））②

都道府県	主食用米					戦略作物										備蓄米			
	2年産実績	3年産意向(対前年実績)			加工用米 2年産実績 3年産意向 (対前年実績)	新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵飼料用稲)		麦		大豆		2年産実績	3年産意向 (対前年実績)
		6月末時点 (今回公表)	4月末時点 (前回公表)	1月末時点 (前々回公表)		2年産実績	3年産意向 (対前年実績)	2年産実績	3年産意向 (対前年実績)	2年産実績	3年産意向 (対前年実績)	2年産実績	3年産意向 (対前年実績)	2年産実績	3年産意向 (対前年実績)	2年産実績	3年産意向 (対前年実績)		
全国計	136.6万				45,208	6,089		6,346		70,883	42,791		98,182		85,083			36,503	
北海道	95,300	↗	↗	↗	5,858	635	↗	51	↗	1,865	↗	574	↗	33,616	↗	18,500	↗	389	↗
青森	38,300	↗	↗	↗	821	255	↗	5	↗	4,403	↗	666	↗	598	↗	4,320	↗	5,865	↗
岩手	48,200	↗	↗	↗	1,104	244	↗	71	↗	3,589	↗	1,758	↗	3,348	↗	3,531	↗	687	↗
宮城	64,500	↗	↗	↗	707	636	↗	145	↗	4,913	↗	2,070	↗	1,662	↗	9,171	↗	2,319	↗
秋田	75,300	↗	↗	↗	7,850	289	↗	454	↗	1,574	↗	1,107	↗	173	↗	7,930	↗	3,689	↗
山形	56,500	↗	↗	↗	3,895	250	↗	128	↗	3,192	↗	930	↗	69	↗	4,562	↗	3,877	↗
福島	59,200	↗	↗	↗	424	41	↗	5	↗	4,933	↗	952	↗	300	↗	669	↗	5,588	↗
茨城	65,500	↗	↗	↗	1,351	622	↗	37	↗	7,886	↗	535	↗	4,317	↗	427	↗	258	↗
栃木	54,900	↗	↗	↗	1,912	106	↗	811	↗	8,341	↗	1,614	↗	6,902	↗	295	↗	1,399	↗
群馬	13,600	↗	↗	↗	1,309	14	↗	325	↗	959	↗	514	↗	2,053	↗	88	↗	247	↗
埼玉	30,600	↗	↗	↗	124	32	↗	923	↗	1,246	↗	118	↗	1,718	↗	331	↗	137	↗
千葉	52,500	↗	↗	↗	1,438	12	↗	72	↗	3,822	↗	933	↗	454	↗	290	↗	1,391	↗
東京	124	↗	↗	↗	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2,990	↗	↗	↗	-	-	-	-	-	10	↗	-	↗	4	↗	6	↗	-	-
新潟	106,700	↗	↗	↗	5,056	1,134	↗	1,695	↗	1,876	↗	370	↗	171	↗	3,760	↗	4,731	↗
富山	33,200	↗	↗	↗	1,007	263	↗	120	↗	1,297	↗	449	↗	2,915	↗	3,513	↗	2,487	↗
石川	22,600	↗	↗	↗	404	297	↗	125	↗	548	↗	92	↗	904	↗	847	↗	1,288	↗
福井	23,300	↗	↗	↗	443	279	↗	169	↗	1,073	↗	107	↗	4,679	↗	106	↗	812	↗
山梨	4,800	↗	↗	↗	68	-	-	8	↗	19	↗	14	↗	52	↗	97	↗	-	-
長野	30,700	↗	↗	↗	663	114	↗	22	↗	228	↗	204	↗	2,332	↗	509	↗	224	↗
岐阜	21,400	↗	↗	↗	962	73	↗	30	↗	2,271	↗	205	↗	3,336	↗	360	↗	69	↗
静岡	15,400	↗	↗	↗	138	1	↗	1	↗	1,033	↗	240	↗	230	↗	38	↗	4	↗
愛知	26,400	↗	↗	↗	601	26	↗	87	↗	1,298	↗	169	↗	5,245	↗	107	↗	325	↗
三重	26,700	↗	↗	↗	181	82	↗	96	↗	1,586	↗	253	↗	6,531	↗	306	↗	-	↗

(注1) 主食用米の「3年産意向(対前年実績)」「1月末時点」は、2年産実績と比較し、「↑」：増加傾向、「→」：前年並み傾向、「↓」：減少傾向で分類。
(注2) 主食用米の「3年産意向(対前年実績)」「4月末時点及び6月末時点」は、2年産実績と比較し、「↑」：1～3%程度減少傾向、「↗」：3～5%程度の減少傾向で分類。
(注3) 主食用米の「2年産実績」は、2年12月統計都公表の主食用作付面積。
(注4) 加工用米、飼料用米、WCS用稲、米粉用米、新市場開拓用米の「2年産実績」は、取組計画認定面積。麦・大豆の「2年産実績」は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。
(注5) 備蓄米の「2年産実績」は、地域農業再生協議会が把握した面積。

令和3年産米等の作付意向について（第3回中間的取組状況（令和3年6月末時点））③

都道府県	主食用米					戦略作物										備蓄米	
	2年産実績	3年産意向(対前年実績)			加工用米	新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲穀飼料用稲)		麦		大豆	
		6月末時点 (今回公表)	4月末時点 (前回公表)	1月末時点 (前々回公表)		2年産実績	3年産意向 (対前年実績)	2年産実績	3年産意向 (対前年実績)	2年産実績	3年産意向 (対前年実績)	2年産実績	3年産意向 (対前年実績)	2年産実績	3年産意向 (対前年実績)	2年産実績	3年産意向 (対前年実績)
滋賀	29,700	→	→	→	783	195	→	28	→	1,096	→	251	→	7,436	→	441	→
京都	13,800	→	→	→	492	21	→	7	→	95	→	117	→	235	→	231	→
大阪	4,700	→	→	→	0	-	→	5	→	7	→	-	-	3	→	6	→
兵庫	34,800	→	→	→	749	68	→	43	→	299	→	797	→	1,837	→	1,478	→
奈良	8,430	→	→	→	21	0	→	29	→	27	→	36	→	61	→	20	→
和歌山	6,250	→	→	→	-	-	-	1	→	2	→	2	→	3	→	14	→
鳥取	12,800	→	→	→	17	5	→	1	→	517	→	323	→	31	→	570	→
島根	16,800	→	→	→	318	2	→	9	→	682	→	571	→	277	→	574	→
岡山	28,900	→	→	→	377	109	→	88	→	1,074	→	334	→	1,197	→	1,071	→
広島	22,000	→	→	→	364	60	→	124	→	293	→	549	→	280	→	255	→
山口	17,800	→	→	→	912	122	→	22	→	900	→	345	→	711	→	747	→
徳島	10,700	→	→	→	18	46	→	12	→	558	→	209	→	53	→	6	→
香川	11,600	→	→	→	39	6	→	7	→	129	→	131	→	1,077	→	48	→
愛媛	13,300	→	→	→	76	-	-	2	→	230	→	150	→	517	→	320	→
高知	11,200	→	→	→	68	-	-	15	→	859	→	239	→	5	→	59	→
福岡	34,400	→	→	→	212	9	→	281	→	1,886	→	1,517	→	1,180	→	7,898	→
佐賀	23,400	→	→	→	390	6	→	23	→	603	→	1,523	→	180	→	7,619	→
長崎	11,000	→	→	→	9	2	→	6	→	111	→	1,244	→	93	→	317	→
熊本	32,300	→	→	→	748	17	→	222	→	1,135	→	7,852	→	738	→	2,003	→
大分	20,000	→	→	→	156	-	-	12	→	1,355	→	2,526	→	590	→	1,195	→
宮崎	14,300	→	→	→	1,642	16	→	17	→	412	→	6,656	→	13	→	204	→
鹿児島	17,800	→	→	→	1,480	1	→	10	→	653	→	3,542	→	57	→	246	→
沖縄	630	→	→	→	19	-	-	1	→	-	-	3	→	-	-	-	-

(注1) 主食用米の「3年産意向(対前年実績)」「1月末時点」は、2年産実績と比較し、「→」：前年並み傾向、「↑」：増加傾向、「↓」：減少傾向で分類。
(注2) 主食用米の「3年産意向(対前年実績)」「4月末時点及び6月末時点」は、2年産実績と比較し、「→」：前年並み傾向、「↑」：1～3%程度減少傾向、「↓」：3～5%程度減少傾向、「↘」：5%以上の減少傾向で分類。
(注3) 主食用米の「2年産実績」は、2年12月統計部公表の主食用米作付面積。
(注4) 加工用米、飼料用米、WCS用稲、米粉用米、新市場開拓用米の「2年産実績」は、取組計画認定面積。麦・大豆の「2年産実績」は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。
(注5) 備蓄米の「2年産実績」は、地域農業再生協議会が把握した面積。

コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況

品 目 名	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年		(参考) 主な輸出先国
					1～5月	対前年比	
コメ・コメ加工品	数量 (原料米換算)	28,668トン	32,202トン	35,505トン	36,442トン	17,699トン	アメリカ 香港 中国 台湾 シンガポール
	金額	264億円	309億円	329億円	347億円	190億円	
コメ (援助米を除く)	数量	11,841トン	13,794トン	17,381トン	19,687トン	8,723トン	香港 シンガポール アメリカ 台湾 オーストラリア
	金額	32億円	38億円	46億円	53億円	23億円	
米菓 (あられ・せんべい)	数量	3,849トン	4,053トン	4,033トン	4,222トン	2,077トン	アメリカ 台湾 香港 サウジアラビア シンガポール
	原料米換算 金額	3,272トン 42億円	3,445トン 44億円	3,428トン 43億円	3,589トン 45億円	1,766トン 22億円	
日本酒 (清酒)	数量	23,482 キロリットル	25,747 キロリットル	24,928 キロリットル	21,761 キロリットル	12,309 キロリットル	中国 香港 アメリカ シンガポール 台湾
	原料米換算 金額	13,227トン 187億円	14,502トン 222億円	14,041トン 234億円	12,257トン 241億円	6,933トン 143億円	
パックご飯	数量	658トン	923トン	1,018トン	1,203トン	464トン	アメリカ 香港 台湾 中国 ベトナム
	原料米換算 金額	329トン 3億円	461トン 5億円	509トン 5億円	601トン 7億円	232トン 2億円	
米粉及び米粉製品 (米粉麺等)	数量			118トン	249トン	37トン	アメリカ タイ 台湾 香港 ドイツ
	原料米換算 金額			146トン 0.3億円	308トン 0.7億円	45トン 0.2億円	
コメ・パックご飯・米粉及び米粉製品	数量 (原料米換算)	12,170トン	14,255トン	18,036トン	20,596トン	9,000トン	アメリカ 香港 中国 台湾 シンガポール
	金額	35億円	42億円	52億円	60億円	25億円	

資料：財務省「貿易統計」より農林水産省にて作成。(政府による食糧援助を除く。)
 注1：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。
 注2：米粉は2019年より、米粉麺等は2020年より貿易統計にて輸出実績を集計・公表。

令和3年産備蓄米の政府買入入札の結果(令和3年3月25日現在)

○ 令和3年産備蓄米の政府買入入札については、令和3年3月25日（木）の第4回入札により、買入予定数量20万7,000トンの全量が落札された。

※令和3年産落札数量は、第1回（令和3年1月26日実施）から第4回（令和3年3月25日実施）入札分までの合計数量

産地	買入予定数量 (優先枠) ①	落札数量 ②	落札率 ②/①	落札残数量 ①-②	
				落札数量 ②	落札率 ②/①
京都					
大阪					
兵庫					
奈良					
和歌山					
鳥取	400	400	100.0%	0	0
島根	130	130	100.0%	0	0
岡山	977	977	100.0%	0	0
広島	20	20	100.0%	0	0
山口					
徳島	1,182	1,182	100.0%	0	0
香川					
愛媛					
高知	10	10	100.0%	0	0
福岡	264	76	28.8%	188	
佐賀	220	220	100.0%	0	0
長崎	10	-	0.0%	10	0
熊本	247	247	100.0%	0	0
大分	94	94	100.0%	0	0
宮崎					
鹿児島					
県別優先枠計①	185,314	185,116	99.9%	198	
一般枠②	21,686	21,884	100.9%	▲ 198	
合計(①+②)	207,000	207,000	100.0%	0	0
うちCPTPP分		7,000			

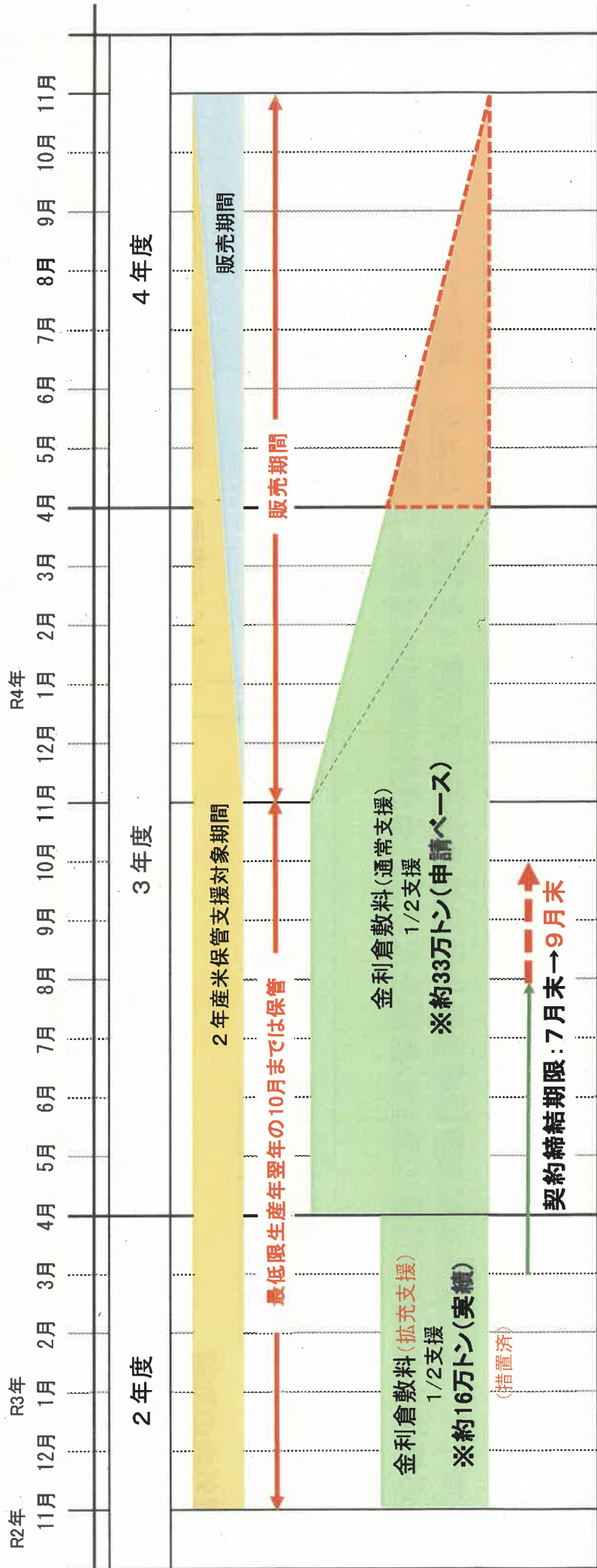
産地	買入予定数量 (優先枠) ①	落札数量 ②	落札率 ②/①	落札残数量 ①-②
北海道	2,162	2,162	100.0%	0
青森	27,259	27,259	100.0%	0
岩手	3,488	3,488	100.0%	0
宮城	11,600	11,600	100.0%	0
秋田	21,572	21,572	100.0%	0
山形	21,291	21,291	100.0%	0
福島	27,050	27,050	100.0%	0
茨城	1,103	1,103	100.0%	0
栃木	7,602	7,602	100.0%	0
群馬	555	555	100.0%	0
埼玉	463	463	100.0%	0
千葉	3,985	3,985	100.0%	0
東京				
神奈川				
新潟	25,149	25,149	100.0%	0
富山	12,197	12,197	100.0%	0
石川	7,849	7,849	100.0%	0
福井	4,076	4,076	100.0%	0
山梨				
長野	1,446	1,446	100.0%	0
岐阜	435	435	100.0%	0
静岡	20	20	100.0%	0
愛知	846	846	100.0%	0
三重	270	270	100.0%	0
滋賀	1,342	1,342	100.0%	0

※県別優先枠の落札残数量は、第4回入札において、産地指定を行わない一般枠のみ買入枠を設定。

米穀周年供給・需要拡大支援事業（3年度当初：5,033百万円）による支援

- 主食用米の長期計画的な販売を推進するため、各産地が調整保管に確実に取り組めるよう、令和2年産米について、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」による保管経費等の支援対象期間を拡充（5か月間前倒しし、令和2年11月から支援）。昨年度から継続して調整保管を行う拡充支援分も含め、令和3年4月以降の3年度予算において、約33万トンの申請。
- 更に、現下の需給環境の中で、産地・生産者自らの計画的な販売に対する支援の拡充を図ることとし、令和2年産米について、支援要件である契約期限を延長（令和3年7月末までを令和3年9月末までに2か月間延長）するなどの特別支援を措置する。

【令和2年産米の保管経費等の拡充支援イメージ】



※ 支援対象経費 金利：販売時期が遅れることにより増加する概算金支払に係る借入金の支払利息
倉敷：米穀の保管経費
集約経費：対象米穀の営業倉庫等への集約運送に要する経費

米の需要拡大・販売促進対策について

- 新型コロナウイルス感染症の影響等により、特に中食・外食向けの需要が大きく減少。
- Go To Eatキャンペーンによる外食需要の喚起とあわせて、国産農林水産物等販売促進緊急対策（2年度1次補正）の対象品目として、中食・外食向けの米を新たに追加し、販売促進の取組を支援。
- 加えて、国産農林水産物等販路多様化緊急対策事業（2年度3次補正）により、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う需要の減少の影響を受けている農林水産物を活用した販売促進、販路の多様化等の取組を支援。

国産農林水産物等販売促進緊急対策（1次補正）

- ◆ **支援対象** → 中食・外食向けの米
- ◆ **支援対象の取組**
中食・外食事業者等の販促キャンペーンで使用する米の費用
(5,300円/60kg)等を支援 [期間：3/12までにキャンペーン完了]

国産農林水産物等販路多様化緊急対策事業（3次補正）

- ◆ **支援対象** → 品目の特定なし
需要の減少の影響を受けている農林水産物等
 - ◆ **支援対象の取組**
 - ① 消費者向けの新たな販路確立（インターネット販売）
 - ② テイクアウト・デリバリーを活用した多様な販路確立
 - ③ 創意工夫による多様な販路確立
 - ④ 学校給食・子ども食堂等への食材提供
- ※ 助成単価・補助率： ①の取組〔送料〕定額、〔広告宣伝費〕1/2以内、②及び③の取組〔食材費〕1/2以内、④の取組〔食材費〕定額
- 〔 〇期間（1次募集）：3/26までにキャンペーン完了
〇期間（2次募集）：7/31までにキャンペーン完了
〇期間（3次募集）：9/30までにキャンペーン完了 〕

～外食チェーンでの販売促進の取組事例～

【くら寿司】産地応援キャンペーン！



※くら寿司店舗内PR

※注文タッチパネルに掲載

■キャンペーン概要

- 名称：産地応援キャンペーン！
- 対象店舗：くら寿司 全店
- 期間：2021年4月23日～5月6日（山形県産米）、5月12日～5月25日（宮城県産米）、6月4日～7月1日（岩手県産米）、7月2日～7月29日（北海道産米）
- 内容：「特大切り・特盛りフェア」等を開催し、お客様の裏面を因るにより運産米の消費拡大に繋げる。

【坂本食糧】-量販店向け販売-



坂本食糧が6月末から販売する栃木県産米の
お得な家庭向け商品

外食用コ×お徳に

八代市の米穀卸店 販売

■ファンペーン概要

- 名称：九州地域で栃木県産栗の新たな販路確保
- 対象店舗：九州の量販店、スーパーマーケット等
- 期間：2021年5月22日～7月4日（土曜・日曜日間を週間開催）
- 内容：令和2年栃木県産とちぎの栗、を多くの九州の消費者に召し上がっていただくため、量販店等にて増量販売（+2kg）を実施。

がっていただいたため、量販店等にて増量販売(+2kg)を実施。

(熊本日新聞に掲載)

【和風レストラン天狗 一外食での販促-】

News Release

アサヒ

2021年3月15日
東京大学経済学系

産地応援企画「和食れずとらん天狗」にて
“国産米を食べよう”キャンペーンを3月13日より実施

[illegible]

テンアライドでは、本年・事業計画書、代若取締役会、年度使用請求の時期等決定を行
うため、定て三月四日（土）より、重地所を目的とし、定地使用請求の時期等決定を行

(イ) 定



令和2年産 北海道きさら397使用

(テンアライドのHPに掲載)

【木徳神糧(株)】インターネット販売-

本館神理公式オンライントレーニング！ゴメツツ



／ 張起龍 ／

「送料無料キャンペーン」第2弾



■キャンペーンの概要

- 名称 食べて陸地応援
 - 対象 宮城県産のとめまれ
 - 期間 2021年7月28日（木）正午まで
 - 内容 研がすに炊ける便利な無洗米をなんと普通精米と同じ価格でご提供（送料無料）
- ※宮城県のとめまれと国産米食べ比べセットや国産もまき等とのセット販売を準備中。

(木徳神糧のHPに掲載)

【ホクレン コンビニ (株)セコマ】での販促-



■ 444-11 概説

- 名称：「北海道米食べて応援」
 ○対象店舗：コンビニエンスストア「セコマ」全店
 ○期間：2021年3月15日～26日
 ○内容：キャンペーンタイトルを「ごはんを食べて」と設定し、店頭ツール・チラシ等で広範囲にPRすることにより、北海道産米の需要喚起を図る。
 ※大盛（無料）商品やおむすび7個購入で1個プレゼントを実施。

※大盛(無料)商品やおむすび7個購入で1個プレゼントを実施。

(店頭ツール・チラシに掲載)

政府備蓄米の無償交付(子ども食堂等、子ども宅食への支援)【令和3年度】

背景・目的

- 新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、**学校給食の補完機能を果たす「子ども食堂等」**に加え、子ども食堂に集まりにく
い中で、**子育て家庭に食材を届ける「子ども宅食」**の取組が拡大しています。
- 従前より**政府備蓄米**を活用して、学校給食における**ごはん食の拡大を支援**してきた**無償交付制度**の枠組みの下、**子ども食堂等**や**子ども宅食**においても**食育の一環としてごはん食の推進を支援**します。

事業内容

【子ども食堂等】

- **ごはん食を提供する子ども食堂等(食事提供団体)**の取組に交付。
- **食事提供**を行う場所で、子どもにごはん食の魅力などを伝える**食育の取組**を行うことが**条件**。(食事提供団体ごとに、一申請当たり90Kgを上限に交付)

【子ども宅食】

- **食材提供**を希望する**子育て家庭に、政府備蓄米と他の食材を併せて、直接配付を行う団体(食材提供団体)**に交付。
- **ごはん食の魅力が伝わるチラシやレシピなど活用し、子育て家庭に対し、ごはん食の魅力を伝えるなどの食育の取組を行うことが条件**。
(食材提供団体ごとに、一申請当たり300Kgを上限に交付)
- **交付対象者 ※以下の要件を満たした団体**

- ・「都道府県や市区町村等と連携し、子育て家庭の情報を基に活動をしている団体」又は「公的支援を受けている団体」
- ・「子育て家庭に直接、食事又は食材の提供を行っている団体」

申請方法

- 農林水産省に**直接申請**。

- ※ 依頼を受けた団体が交付申請書を取りまとめ提出することも可能。
(交付申請者は、食事提供団体、食材提供団体です。)
- ※ 交付された政府備蓄米について、交付した数量を適切に使用した場合、必要に応じて年度内の追加申請が可能。
- ※ 同じ提供団体であっても活動実態が異なる場合、それぞれの支部単位での申請が可能。

【交付申請者】



本事業の内容については、以下の担当まで
直接お問い合わせください。

【お問い合わせ先】 農産局穀物課消費流通第1班
(ダイヤルイン：03-3502-7950)

MA米の輸入状況

- MA米の主な輸入先国は、米国、タイ、豪州、中国など。
- 国別の輸入数量は、国内における加工用の実需者のニーズ、輸出国の生産量及び作付品種の状況、輸出余力等を勘案しながら行う入札の結果として決定される。

○ MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：千玄米トン）

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
米国	194	233	290	313	339	356	364	361	355	361	362	358	358
タイ	107	144	151	152	159	168	146	153	153	185	186	179	243
中国	32	40	46	78	86	99	136	112	110	98	84	76	82
オーストラリア	87	87	95	109	115	120	110	96	90	20	19	52	-
その他	5	6	13	29	24	24	11	44	51	103	116	102	13
合計	426	511	596	681	724	767	767	767	759	767	767	767	696
（うち一般輸入）	415	488	537	551	591	632	655	710	647	661	655	654	585
（うちSBS輸入）※	11	22	55	120	120	120	100	50	100	94	100	100	100

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
米国	430	358	356	358	362	359	359	359	376	365	359	360	360
タイ	261	332	345	241	281	351	332	344	375	264	316	306	322
中国	72	71	19	56	46	1	55	56	3	56	69	83	70
オーストラリア	-	-	40	71	64	41	14	1	7	74	14	0	-
その他	6	5	6	40	13	15	6	6	7	8	8	17	15
合計	769	767	767	767	767	767	767	767	767	767	767	767	767
（うち一般輸入）	658	655	725	658	656	700	754	734	685	655	701	681	699
（うちSBS輸入）※	100	100	37	100	100	61	12	29	73	100	59	77	60

※SBS輸入数量の単位は千玄米トン。
 注1：各年度の輸入契約数量の推移。
 注2：千玄米トンと千玄米トンのため合計は一致しない場合がある。
 注3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。
 （参考）枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

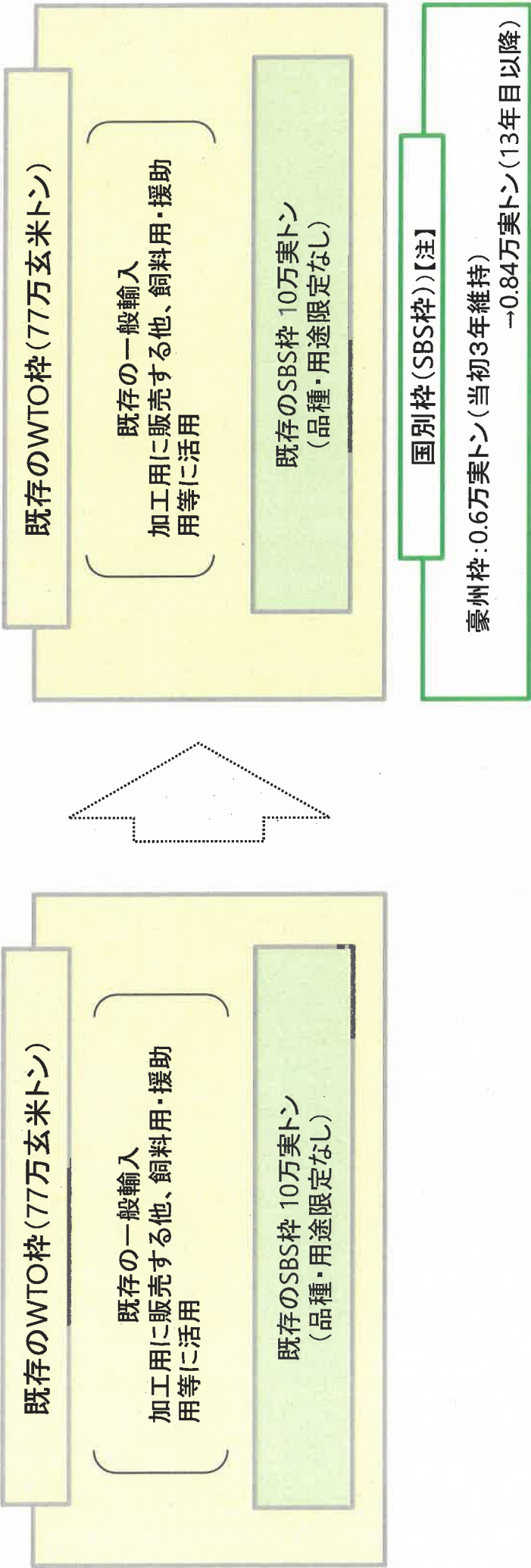
令和2年度のSBS米の輸入入札状況(ガット・ウルグアイラウンド農業合意によるMA米数量分(10万トン))

(単位:実トン)

入札回数	全体				丸米				碎米			
	輸入予定数量	応札数量	落札数量		輸入予定数量	応札数量	落札数量		輸入予定数量	応札数量	落札数量	
第1回 (2年9月25日)	25,000	5,778	3,940		22,500	3,018	1,440		2,500	2,760	2,500	
第2回 (2年10月28日)	25,000	7,185	5,569		22,500	3,827	3,069		2,500	3,358	2,500	
第3回 (2年11月25日)	25,000	8,923	7,475		22,500	5,773	4,975		2,500	3,150	2,500	
第4回 (2年12月22日)	25,000	7,756	5,700		22,500	4,424	3,200		2,500	3,332	2,500	
第5回 (3年1月14日)	30,000	11,340	8,668		27,000	7,522	5,668		3,000	3,818	3,000	
第6回 (3年1月29日)	30,000	9,816	8,556		27,000	8,456	7,196		3,000	1,360	1,360	
第7回 (3年2月17日)	30,000	13,619	13,077		27,000	11,713	11,371		3,000	1,906	1,706	
第8回 (3年3月3日)	47,015	8,186	7,288		44,015	5,802	5,402		3,000	2,384	1,886	
合計			60,273				42,321				17,952	

TPP11におけるコメの豪州枠の運用

- TPP11においては、現行の国家貿易制度と、枠外税率(コメの場合341円/kg)を維持した上で、豪州にSBS方式の国別枠を設定。(コメと米粉等の国貨品目を対象として一体的に運用。)
- 国別枠の数量は、当初3年は6,000実トン、13年目以降は8,400実トン。入札は、毎年度、5月から2ヶ月ごとに年6回実施する。



注: 円滑な入札手続を行うため、透明性向上の観点から、SBSの運用方法の一部について、技術的な変更を実施。
(単位: 実トン)

○ TPP11豪州枠の年間枠数量及び輸入数量

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030以降
枠数量 (実トン)	2,000(※)	6,000	6,000	6,240	6,480	6,720	6,960	7,200	7,440	7,680	7,920	8,160	8,400
輸入数量	1,120	3,459	595	20 (2021.07時点)									

※協定が2018年12月に発効したため、2018年度は6,000実トンを年度の残余の月数で按分した数量
注: 輸入数量は各年度の輸入契約数量の推移。

